

## 平成 27 年度 ジャパンリンクセンター運営委員会（第 4 回）議事要旨

### 開催要旨

日 時 : 平成 28 年 3 月 11 日 (金) 10:00~12:00

場 所 : 国立研究開発法人科学技術振興機構 東京本部 2階会議室2

出席者 : (敬称略)

国立情報学研究所 武田英明 (委員長)

国立国会図書館 伊東敦子 (委員)

国立研究開発法人科学技術振興機構 小賀坂康志 (委員)

国立研究開発法人物質・材料研究機構 谷藤幹子 (委員)

国立研究開発法人科学技術振興機構 加藤斉史、余頃祐介 (事務局)

- 議事概要 :
1. ジャパンリンクセンターの近況
  2. 平成27年度の運営実績 (案)
  3. 平成28年度の運営計画 (案)
  4. ジャパンリンクセンター長期ビジョンおよび中期計画の策定計画
  5. 「研究データへのDOI登録実験プロジェクト」に後続する場の発足
  6. 「eラーニングへのDOI登録実験プロジェクト」の進捗状況
  7. 会員制度 (検索会員) の検討
  8. その他

### 議事概要

#### 1. 「JaLC の現況」について

- ・ 「入会の手引き」や「入会申込書」に、JaLC への入会のために必要な要件 (持続的に DOI を維持できる組織体制があること、DOI 登録対象が広く学術に関わるものであることなど) を明示的に記載しておく必要がある。
- ・ 日本語のメタデータしかないコンテンツの Crossref DOI の登録については、Crossref の考え方や、JaLC システムの現状を整理したうえで、JaLC としての立場を検討することとする。

#### 2. 平成 27 年度の運営実績 (案)

- ・ 平成 27 年度の実績 (案) は承認された。

#### 3. 平成 28 年度の運営計画 (案)

- ・ IDF Technical Working Group ではメタデータの互換性の議論がどんどん進んでいる。JaLC としても技術の分かる人を集めて、プロトタイプ of 構築などをプロジェクト的にやっていたかなければならない。
- ・ RDA 会合でブース展示をしていた Nature の Scientific Data では、DataCite DOI を取得していることが採録基準となっている。

- **Mendeley** の研究データの repository サービス "**Mendeley Data**" においても、研究データを登録すると、自動的に **DataCite DOI** が登録されるしくみになっている。
- この分野の動きはとても早く、立ちおけると取り返しのつかないことになる。また、**JaLC** としても自らの立場を主張をしていかないと、流れに取り残されていってしまう。
- 簡易検索機能の開発にあたっては、使う側の視点も忘れてはならない。
- 既存の **API** を使うのではなく、新たに検索用の **RDB** を構築する方が簡便で強力である。**RDB** の更新は、1日1回夜間に走らせるくらいで十分である。
- 外部連携の際にも利用できるものを開発しておき、それを利用して、一般向けの検索機能を提供するのがよい。その際、**RDF** やテキスト形式など多様なインターフェースで回答できるようなしくみであることが望ましい。
- 設計の検討段階で、運営委員会にも諮ることとする。外部連携の際の重要な機能であるため、手戻りを防止する必要があるためである。

#### 4. ジャパンリンクセンター長期ビジョンおよび中期計画の策定計画

- 運営委員会の定期会合でビジョンを策定するのは、時間的にもリソース的にも厳しいものがある。運営委員会の定期会合とは別に、外部有識者等を交え **AD HOC** に開催する会議で策定を行う。

#### 5. 「研究データへの DOI 登録実験プロジェクト」に後続する場の発足

- 構成機関が持ち回りで運営するというのは自律性という観点からだけでなく、多様性の面からも良いことである。
- 構成機関は、組織として積極的に運営に協力することが期待される。そうでない機関に所属する者は個人で参加するものとする。個人参加者については、基本的には来る者は拒まずという立場であるが、研究データと全く関係の無い場合などはお断りすることもある。
- まずは、協議会の準備会議を4月に立ち上げる。その構成機関は、「研究データへの DOI 登録実験プロジェクト」の参加機関を中心とした、国立研究開発法人科学技術振興機構 (**JST**)、国立研究開発法人物質・材料研究機構 (**NIMS**)、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所 (**NII**)、国立国会図書館 (**NDL**)、国立研究開発法人産業技術総合研究所 (**AIST**)、国立研究開発法人情報通信研究機構 (**NICT**) の6機関とする。その後、準備会議のキックオフ会合を5月に開催する。
- 構成機関を随時募り、協議会を発足させ、第1回の会合を6月以降に開催する。

#### 6. 「eラーニングへの DOI 登録実験プロジェクト」の進捗状況

資料配付のみ

#### 7. 会員制度（検索会員）の検討

- ・ 検索会員の年会費に係る規定を新設したジャパンリンクセンター参加規約の改正（案）は承認された。

次回開催日時は、別途メールにて調整する。

— 以 上 —